女性教職員活躍推進だより

第10号　令和6年6月27日　教育庁職員課

☆★　女性管理職ロールモデル紹介　☆★

福島県特別支援教育センター所長

五十嵐　登美 さん

職員課主幹兼副課長
渡辺隆博が話を伺いました！！

Q：これまでの経歴を教えてください。

聾学校平分校（現聴覚支援学校平校）で教諭としてのスタートを切り、会津養護（支援）学校、あぶくま養護（支援）学校で知的障がい教育に長く携わりました。多くの子どもたちや先生方との出逢いを通し、子どもたちの理解やかかわりについて深く考え学ぶことができた経験は、教師としての土台となっています。また、あぶくま養護（支援）学校では、巡回相談員や特別支援教育コーディネーターを経験させていただき、視野を広げることができました。

その後、特別支援教育課指導主事、教頭として視覚支援学校で勤務。特別支援教育センター主任指導主事、いわき支援学校副校長を経て、特別支援教育センター企画事業部長、そして、現在、特別支援教育センター所長を勤めています。

Q：教頭時代にワーク・ライフ・バランスで工夫した点はありますか

教頭が2人体制の学校で勤務していましたので、2人で話し合って早く帰れる日をつくりました。ON・OFF の切り替えがとても大事だと思います。休日は、自分の時間を作ってリフレッシュし、心身の疲れをためないことも大切にしました。

Q：ミドルリーダーの経験はありますか。

あぶくま養護学校で、研修主任と教育支援部長を務めました。特に、教育支援部の時には、「学校全体を見ること」「地域の状況を知ること」の大切さを強く感じました。また、教務や進路指導主事、生徒指導主事といったミドルリーダー同士で、日常的によく語り合いました。連携して学校課題や子どもたちの支援を考えられたことは大きな経験になりましたし、「組織として動く」ことの重要性を実感しました。

Q：昇任考査を受験したきっかけを教えてください。

特別支援教育課で勤務していた時に、上司から勧められました。とても悩みましたが、ミドルリーダーや課での経験を通して、そして、先輩の先生方から助言をいただくことで、「これまでと違った視点や立場で子どもたちを支えられるのではないか」と考えるようになり、受験しました。

Q：管理職のロールモデルはいらっしゃいましたか。

一緒に勤務した校長先生です。学校運営への熱い思いや、地域における特別支援学校の役割への考えに触れるたびに刺激を受けました。また、学校経営・運営ビジョンを具現化するために、管理職と先生方で協働して進めていくプロセスや、子どもたち・先生方を守るための危機管理や対応など、多くのことを学ばせていただきました。対話を大切にし、子どもたちや先生方のことを深く考え判断される姿に、自分もそうありたいと感じました。

Q：教頭職のやりがいはどのように感じていましたか。

教頭は、教諭とは学校の見え方が大きく変わり、学校を俯瞰して見ていく立場になります。先生方や子どもたちを取り巻く様々な方と幅広くかかわりを持ちながら、学校運営に携われることにやりがいを感じました。また、先生方とともに、子どもたちの支援体制や学校課題への方策を考え取り組むことで、子どもたちの成長を共に喜び合えたときや、課題解決につながったときは大きな充実感がありました。

Q：校長職のやりがいをどのように感じていますか。

副校長の経験を通し、校長のビジョンを踏まえ、先生方、保護者、地域の方々と目指す方向性を共にした「子どもたちが安心して学べる学校づくり」を進めることの重要性を実感しました。

現在の職場では、目的を踏まえて所員の力を結集し、組織としての成果につなげていくことや、関係機関と連携協働し、県内の特別支援教育の充実・人材育成に貢献できることにやりがいを感じます。

Q：教頭職で大変だったことはありましたか。

特に教頭1年目は、集まってくる情報と、先生方の様々な考えや意見を踏まえながらマネジメントをしていくことに難しさを感じました。そのため、先生方とのコミュニケーションを大切にすることを意識しました。

また、教員としても初めての障がい種の学校でしたので、歴史と伝統、視覚障がいの特性や教育について学ぶことに努めました。この経験を通し、子ども理解や障がい理解の深まりにつながったと感じます。

Q：女性教職員の皆さんにメッセージをお願いします。

今の時代は、多様性がキーワードだと思います。学校運営においても、女性の視点も含め、多様な視点や考えを認め合うことや、それぞれの持ち味・強みをいかし、協働していくことが大切だと思います。また、多様性を意識することで、様々な子どもたちが共に学ぶための環境づくりや、子どもたちの多様性を力に変えていくための教育について、皆で考えることにもつながっていくのではないかと思います。

一人一人の子どもたちの成長を支えるために、関係する方々と協働して学校づくりができることが、管理職の魅力の一つだと思います。皆さんのチャレンジを応援しています。

五十嵐登美先生、ありがとうございました。
次回は、7月下旬頃発行予定です。

～女性教職員活躍推進だよりの発行に当たって～

福島県教育委員会は、女性が職場においてその力を発揮できるよう、「女性教職員活躍推進プラン」を策定し、教職員のニーズに即した女性活躍のための対策を計画的に推進します。また、男女共同参画の実現に向けて、人事の公平性・公正性を確保しつつ、女性教職員の管理職への登用に努めることで、令和7年度までに、女性管理職の割合を教頭・副校長で15%、校長で13%とすることを目標としています。